

Contents

- 1) 学会からのお知らせ
- 2) 健康心理学コラム vol. 52 大阪体育大学 手塚洋介先生

1) 学会からのお知らせ (<http://jahp.wdc-jp.com/>)

■会費納入と登録情報確認のお願い(事務局、財務委員会より)
新年度になりました。
新たな活動に踏み出すために、会費の納入をお早めにお願ひします。
なお所属先などに変更があった方は、学会 HP の会員専用ページ <https://bunken.org/jahp/mypage/logins/login> からお手続きください。
ID、パスワードのお尋ねは、事務局(jahp-post@bunken.co.jp)まで。
会員種別を変更したい場合は、jahp-post@bunken.co.jp へお申し出下さい。
この機会に会員情報をご確認いただければ幸いです。

■書評掲載のお知らせ

「保健と健康の心理学標準テキストシリーズ」第1巻の「保健と健康の心理学 ポジティブヘルスの実現」(大竹恵子編著)の書評が毎日新聞(2017年3月26日東京朝刊)に掲載されました。
詳しくは
<https://mainichi.jp/articles/20170326/ddm/015/070/027000c>

2) 健康心理学コラム Vol. 52

「ストレスから感情、そしてその先へ」
(大阪体育大学体育学部 手塚洋介)

健康心理学、中でも心理学的ストレス理論の構築と実践に最も貢献したであろう R. Lazarus は、1993年の Annual Review of Psychology 誌にて、“From psychological stress to the emotions” というタイトルの論文を発表している。
彼は人の適応を論じるうえで、ストレスという用語の限界に触れ、より包括的で有用性の高い感情を検討する必要性を主張し、ネガティブな側面の多様性やポジティブ感情を考慮する必要性をいち早く説いた。

Lazarus の指摘の他にも、健康心理学が感情に注目する利点はさまざまにある。
感情はその時間的性質から情動や気分に分けられる。
また、感情はその種類に応じて心理的・生理的・行動的な特徴を有するとされる。
こうした特徴を生物心理社会モデルに即して検討することで、人の適応・健康の一層の理解につながるとともに、実践活動にも貢献する知見をもたらすものと期待できる。
関連して、最近では感情が他の心理行動的側面に及ぼす機能についての研究が盛んに行われ、不適応的ともいわれてきたネガティブ感情の適応的側面が見出されつつある。

健康心理学的にも大変興味深い成果ではないだろうか。

実践的・応用的な役割が求められる健康心理学であるが、基礎研究なくしてその発展はない。

感情を中心とした新たな取り組みが、そうした一助になるものと期待される。

実際、本学会が昨年出版した『保健と健康の心理学』において感情が中心的に扱われており、今後の健康心理学における感情研究の展開が楽しみである。

日本健康心理学会広報委員会

<http://jahp-public.blogspot.jp/>

メールマガジンの配信停止、アドレス変更は下記アドレスまで

日本健康心理学会事務局 < jahp-post@bunken.co.jp >

メールマガジンへのご意見・ご感想は下記アドレスまで

広報委員会 < jahp-ML@bunken.co.jp >

過去のメールマガジンは、こちらからご覧いただけます

<http://jahp.wdc-jp.com/health/health1.html>